

# 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

## 1. 資料1～4について、御意見・御質問について

No.	御意見・御質問	回答
1	<p>資料1-4について</p> <p>●基本目標 1と2</p> <p>自治会加入率は減少傾向にあります。これは全国的にも加入率が上がっているところはなく、困難であると思われます。</p> <p>地域活動に参加する市民の割合、NPO活動やボランティア活動に参加した市民の割合は上がっているため、次回の計画では、「何らかの地域活動に参加している」割合として、トータルにとらえることが必要かと思いました</p>	<p>・自治会加入率を増加させるのは難しい問題であると考えますが、本市では加入率の低下要因を分析し、より効果的な支援策を検討してまいります。</p> <p>・次期計画の成果指標につきましては、現在計画を策定中であるため、ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>行政 3-1-1 心のアドバイザー(教育行政課)について</p> <p>相談件数が多いとありますが、年度別相談件数/年度別主な相談内容別の件数の開示が可能なら教えてください。</p>	<p>相談件数は、H28年度712件、H29年度756件、H30年度895件、R1年度876件です。</p> <p>・相談内容別の件数は相談内容が多岐にわたる場合もありカウントしておりませんが、不登校や子育ての悩み、親子関係に関する相談が多い状況です。また、具体的な子どもへの声の掛け方等を助言することも増えてきています。</p>
3	<p>行政 3-2-1 苦情受付体制の整備について</p> <p>①苦情の主な内容は何でしょうか。</p> <p>②福祉課の成果で「関係部署に迅速につなぎ」とありますが、関係部署とはどの部署ですか。</p> <p>③長寿課の苦情の主な内容は何でしょうか。</p>	<p>①苦情は多岐にわたりますが、一例としては、行政窓口の縦割りによる弊害に関する苦情があります。また、県の受託事務(障がい者手帳や自立支援医療証の発行等)が多いため、申請から発行までに長期間を要することも苦情の原因となっています。</p> <p>②福祉課にとっての関係部署とは、障がい者基幹相談支援センター、地域包括支援センター、こどもの発達支援センター、子育て支援室、保健所、職業安定所などが該当します。</p> <p>③長寿課の苦情につきましては、介護事業所のサービスに関すること5件、介護事業所での労働条件に関すること1件、介護保険料に関すること1件ありました。</p>
4	<p>行政 3-2-2(こども課)</p> <p>①成果としてリッチメニューの追加は、解りやすくなってよかったです。</p> <p>②今後の具体的な方向性で「SNS・アプリ等の利用検討」がありますが、スマホで情報を集める人が多くなっていますからスピード感もあり、便利になると思うので早い実現を期待します。</p>	<p>①ありがとうございます。今後も市民の皆さまにわかりやすい情報提供を行うことで、更なる利用者の増加を図りたいと考えます。</p> <p>②スピード感、利便性は情報を伝達する上で非常に重要であると考えております。今後も発信方法の情報収集や利便性の向上に向け検討を続けてまいります。</p>

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

5	行政 3-3-2 支援の担い手の発掘と育成について 生活応援サポーター養成講座の開講による成果が出ていると思います。 少しずつでもメンバーを増やしていきましょう。	令和2年度において、年3回行っている生活応援サポーター養成講座のうち、1回目は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しましたが、今後は感染防止対策に努めながら実施し、メンバーを増やしていきます。
6	行政 4-1-1 公民館の一般トイレにシャワートイレの設置を希望します。	公民館の一般トイレにはシャワートイレを設置しておりませんが、今後の参考とさせていただきます。
7	行政 4-2-2 虐待について(福祉課) 相談件数が増えているとありますが、年度別相談件数/年度別主な相談内容別の件数の開示が可能なら教えてください。	障がい者の虐待件数については、H28年度1件、H29年度3件、H30年度2件、R元年度3件です。 相談内容別では、H28年度は心理的虐待とネグレクト1件、H29年度は、H29年度は性的虐待1件、経済的虐待2件、H30年度はネグレクトと心理的虐待と経済的虐待1件、心理的虐待と経済的虐待1件、R元年度は、ネグレクトと心理的虐待と経済的虐待1件、心理的虐待と経済的虐待1件、身体的虐待1件でした。 相談内容の一例としては、親等から暴言を吐かれる、家族が障がい年金を使う、福祉サービスに通所させないなどの事例がありました。
8	社協 1-2-1 各種サロンの担い手が高齢化で運営継続が困難になる中、利用者の送迎ボランティアについてもおそらく高齢者が担う事になりますが、高齢故に車両事故の不安があります。もし事故が起きた場合にはどのような対応がされるのでしょうか。	現在活動されている送迎ボランティアは、社協の社用車を使用しています。万が一事故が起きた場合は、運転手に状況を確認した上で、社協が対応します。 また、送迎ボランティアで使用する社用車には、自動車保険の他に移送サービスのための保険に加入しています。
9	社協 1-2-2 ふれあい昼食会、手作り弁当友愛訪問について 現在の対象者の年齢では対象者が毎年増え続けることになり費用面の不安、弁当作成時、配達時の人手不足が大きな問題になり、対象者の年齢UPをいつから何歳にするのかが大きな課題になります。	各実施主体の状況により、事業内容の検討をされることは事業を継続していくためにはやむを得ないことかと思えます。 社協では、調理に関わるボランティアを養成する「クッキング・ボランティア講座」を平成30年度から年1回開催し、新たな担い手の発掘に努めています。この講座から5人がボランティアグループに加入しました。
10	社協 1-2-2 ふれあい運動会への協力について 連合自治会、校区社協共に企画・運営のメンバーが高齢化してきており運動会の規模・内容の検討も必要になってきています。地域交流の大切な行事になっていますので普段から若い人(特にPTAの男女)との結びつきが大切になります。	校区別アクションプランでは、複数の校区が多世代交流の場としてふれあい運動会をあげており、重要な行事の1つと捉えています。 引き続きふれあい運動会が、安全かつ円滑に開催できるよう支援します。

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

11	<p>社協 3-1-1 地域相談窓口による相談支援について R1年度までは市民からの相談が大きく増加していることは相談窓口の認知度がUPLした結果だと思えます。 今後も各種悩みに対応していただくにあたりワンストップサービスで相談を受けられるスペシャリストの養成を期待します。</p>	<p>高齢者の相談窓口として、研修などを通じて職員のスキルアップを図っていくことは必要であると思っています。 地域包括支援センターの相談では、3種の専門職(主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師・看護師)で高齢者の相談内容により複数の職員で対応に当たっています。 相談内容によって、生活困窮、障がいや医療保険などの市の対応を必要とすることもあります。</p>
12	<p>社協 3-1-3 生活困窮者への支援について フードバンクの食品で一時的に助かるケースは、何件位あるのでしょうか？ 年度別件数／年度別主な食品の内容別の件数の開示が可能なら教えてください。</p>	<p>社協では、平成28年4月1日に認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋と協定を結び、生活困窮者への食料提供を行っています。平成28年度13件、平成29年度18件、平成30年度13件、令和元年度13件、令和2年度30件(9月30日時点)の提供を行いました。 セカンドハーベスト名古屋では、相談者の家族構成や生活状況(炊飯器、コンロ、電子レンジの有無)を考慮し、その世帯に必要な食品を詰め合わせて(米5kg、缶詰、レトルト食品や調味料等7～8kg等)提供していますので、食品の具体的な内容は社協では把握していません。</p>
13	<p>社協 3-3-2 新たなサービスの開発と提供について 地域ケア会議でサービスを検討しているが、ボランティア頼みになりどこまで積極的な協力者を確保できるかが大きな問題になります。 ボランティアをやらされている感を払拭しないと継続が厳しいと思えます。 楽しんでボランティアに関わる気持ちを持てるというのがいいのですが。</p>	<p>地域ケア会議では、「移動手手段部会」、「見守り部会」、「居場所づくり部会」の3つの部会に分かれ、それぞれ、地域で無理なく支え合える仕組みをつくることを目的として取り組んでいます。 見守り部会では、負担感の軽減を考え、地域の人ができる範囲(例:自宅の電気がついている、洗濯物が取り込まれていない、毎日行く喫茶店にお見えにならないなど)で少し気にかけていただき、通報をいただくようなゆるやかな見守りをお願いするとともに、健康マイスターのポイント対象事業にしています。 これぐらいならやってみようかという気持ちで参加していただけるような仕組みを考えていきたいと思っています。</p>
14	<p>社協 4-1-2 車いすの貸し出しについて ①車いすの保有台数(貸出中も含めて)は、何台でしょうか。 ②車いすの耐用年数は何年としていますか。 ③修理は年間何台位でしょうか、又、修理費用は年間どれくらい必要ですか。 ④返却された際は、点検・修理が必要かと思えますが、誰が行いますか。</p>	<p>①令和2年9月末現在で241台です。 ②車いすの法定耐用年数は6年です。しかし、貸出先の使用頻度や環境によって影響を受けます。 ③令和元年度は年間19台、修理費用は総額19万円でした。 ④点検は車いすの返却があった際に随時職員が行います。修繕が必要と判断した場合は、専門業者に依頼します。</p>

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

15	<p>社協 4-2-2 虐待・DVの早期発見、早期対応について H28年 504件、29年 601件、H30年 419件で、R1年 755件と相談件数が急増していますが、実態調査をして虐待解消に至ったケースはどれくらいあるのでしょうか。そのフォローは行われますか。</p>	<p>令和元年度中の相談のうち、虐待通報のあった実件数は29事案です。事実確認を行った内、虐待を受けたまたは虐待を受けたと思われると判断したものは19件です。全29事案で施設に入所したり、サービスの見直しなど行い虐待解消に努めており、引き続き対応が継続している事案は2事案です。</p>
16	<p>社協 4-3-2 災害ボランティアコーディネーター養成講座について 養成者数が毎年増加していることは災害に対する関心が高いことを示していて非常に良いことです。いざという時に力になる人材を多く育ててください。</p>	<p>講座は毎年開催しており、新規に参加されるかた及び継続して参加されるかたが災害に対して知識を高めていただく機会としています。 今後も養成講座を開催することで、市民の皆さまの災害に対する関心を高めていきたいと考えています。</p>
17	<p>社協 4-4-1 一人暮らし高齢者への宅配・昼食会の支援充実について 会場までの移動手段として運転ボランティアがありますが、社協 1-2-1同様に車両事故の不安があります。</p>	<p>現在活動されている送迎ボランティアは、社協の社用車を使用しています。万が一事故が起きた場合は、運転手に状況を確認した上で、社協が対応します。 また、送迎ボランティアで使用する社用車には、自動車保険の他に移送サービスのための保険に加入しています。</p>
18	<p>社協 4-4-1 地域社会からの孤立化防止について ①「ゆるもーり」のHPは非常に分かりやすいのですが、あさひひまわり隊の登録者を募っていますか。これからでしょうか。 ②4-4-1は、どの項目も民生委員の存在が大きな力になります。高齢者の同居家族情報、独居世帯の連絡先の把握は、今後益々必要になり個人情報保護の厚い壁がある中、もしもの時のためにも訪問面談で何とか情報が集まると良いのですが。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の影響もあり活動が不十分ですが、「ゆるもーり」の登録者は8名で、地域包括支援センターの窓口であさひひまわり隊の登録も募っています。よろしくお願いします。 ②75歳以上の高齢者を対象に実態調査を行っており、訪問を望んでいないかたもお見えになるため新規対象者には郵送による調査など緊急連絡先の収集に努めるなど実態調査を進めていきたいと考えています。また、70歳以上の独居高齢者、高齢者世帯には、民生委員が実態把握を行っており、健康状態や緊急連絡先の確認等を行っています。</p>

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

19	<p>資料2 行政5 地域包括支援センター及び障がい者基幹相談支援センターを中心とした各関係機関の連携、地域包括支援センターにおける相談件数 資料3 社協9 地域包括支援センターと地域相談窓口による相談支援について、障がい者基幹相談支援センターにおける相談件数</p> <p>どちらも相談件数が増加しているが、相談窓口の周知がされているのだと思う。しかし、相談が増えているということはどういうことなのか。対応はできているのでしょうか。</p>	<p>障がい者基幹相談支援センターの相談件数</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>4,568件</td> <td>7,021件</td> <td>6,542件</td> <td>8,257件</td> </tr> <tr> <td>実人数</td> <td>374名</td> <td>399名</td> <td>363名</td> <td>339名</td> </tr> </tbody> </table> <p>相談件数は大きく増加していますが、実人数は減少しているため、十分対応はできていると考えます。R1年度の相談の内容は、45%が「福祉サービスの利用」、21%が「不安の解消」、6%が「健康・医療の相談」となっています。相談は、家族構成、障害・生活状況、本人の希望などを聞き取ってから、支援策を検討するため、複数回から長期間の相談に及ぶ傾向があります。特に明確な解決策がない不安の解消などについては、話を聞くことで安心することもあります。 相談件数が増えているのは、相談の効果(メリット)がある証左であると考えています。</p>		H28	H29	H30	R1	相談件数	4,568件	7,021件	6,542件	8,257件	実人数	374名	399名	363名	339名
	H28	H29	H30	R1													
相談件数	4,568件	7,021件	6,542件	8,257件													
実人数	374名	399名	363名	339名													
20	<p>資料1 基本目標4 近所付き合いをしている市民の割合についてどのように調査しているのですか？</p>	<p>地域福祉計画を策定する際に市民アンケート調査を実施しています。回答の選択肢を①非常に親しく付き合っている②親しく付き合っている③あいさつをする程度の付き合い④ほとんど付き合いはない⑤その他⑥不明・無回答として設定しています。上記のうち、①、②を選択された方の割合を示しています。</p>															
21	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で思うような活動が出来ない中、各担当課の方々、各関係団体の皆様が様々な工夫と苦勞をしながら活動されていることに感謝します。</p>	<p>市民の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を念頭に各事業等を実施させていただきますので、御協力をお願いいたします。</p>															
22	<p>資料中、何力所かでHP等で情報の発達に努めるとあります。確かに内容が充実してきたと感じていますが、高齢の方を中心にツールを持たない人の情報難民化がコロナ禍で更に増えているように感じます。</p>	<p>・高齢の方や情報機器を持たない方のために、紙媒体も用意しておりますので、市役所各課窓口でご覧いただくことが可能です。また、市役所に来所できない方に対しては、ご連絡いただければ紙媒体を郵送するなど、臨機応変に対応させていただきます。</p>															

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議（書面協議）の御意見及び回答

### 2.その他、尾張旭市第3期地域福祉計画や、地域福祉全般に関して

No.	御意見・御質問	回答
1	<p>全般的に、R2の事業実績は大幅に縮小することが予想されるので、R1の実績で評価→次期計画の課題設定をしていくことが必要と考えます。</p> <p>なお、校区社協の活動計画は、実現できなかったところは削除し、実現できたところA・Bの評価の部分のみを残し、ここほベースに計画策定を進めていくことが必要と思われます。</p>	<p>次期計画につきましては、令和元年度実績を基に作成しております。令和2年度はコロナ禍による事業縮小もありましたが、計画策定につきましては、新型コロナウイルス感染拡大への対策を図りながら、通常どおりの課題設定・施策展開を検討してまいります。</p>
2	<p>コロナ禍にあって、今年度は計画の推進が困難であると考えます。しかし、同時に自粛生活に続く生活を過ごしている皆さんは、人とのふれあいを渴望していると思います。</p> <p>人と話す機会が減って、認知力が低下したり、外出する機会が減り、運動機能が低下したり・・・等々</p> <p>地域福祉計画では元気な人々に対しての福祉計画ですが、その枠だけで推し進める事が難しいのではないのでしょうか。</p> <p>今後は柔軟な頭で他の関係部署と連携して尾張旭市民の元気を推進していただきたいです。</p>	<p>人とのふれあいは多くの方が望んでいる事かと思われます。新型コロナウイルス感染拡大のため、公共施設等を活用した事業は中止となることもあるかと思ひます。</p> <p>市として筋力低下を防ぐため「らくらく筋トレ体操」の動画をホームページ上で公開したり、DVDを作成し配布を予定しています。このように違った形での事業の展開も検討しております。</p> <p>地域福祉計画は特定の人に限定せず、地域に住む誰もがしあわせな暮らしを送ることができる地域づくりを目指しているものです。引き続き、すべての市民のかたがしあわせに生活ができることを目指してまいります。</p>
3	<p>地域福祉推進のために様々な工夫や努力をしているにもかかわらずボランティアへの参加人数や自治会の加入人数は減少傾向。</p> <p>個人的な感触として、福祉に関心のある人は既に複数の活動をし、そうでない人は無関心かメリットのある事には参加するが負担を伴うことは避ける人が多いように思ひます。様々な理由があると思ひますが多くの人を取り込むにはどうすればいいのか・・・</p> <p>それに加え、現在活動中の人の負担を軽くし、高齢になっても続けられるよう活動内容を見直す。新しい生活様式に対応すると同時に今後の課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会加入率は低下傾向にありますが、「地域活動に参加している市民の割合」は微増傾向にあります。今後も、まずは地域活動へ参加してもらうことで、自治会の活動内容や必要性を理解してもらうことで加入の促進に協力してまいりたいと考えています。</li> <li>・ボランティアへの参加につきましては、現在ボランティアセンターで開催している養成講座だけでなく、皆さんが関心のあるテーマや、参加しやすい開催日時等とするなど、少しでも多くの方に興味を持っていただけるように工夫してまいります。</li> <li>・現在、地域福祉計画を策定しておりますので、地域活動の展開や地域福祉活動に対する支援方法について、より多くの人を取り込む方法を検討したいと考えています。</li> </ul>